

令和5年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	8004	領域略称名	ヤポネシアゲノム
研究領域名	ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明		
領域代表者名 (所属等)	斎藤 成也 (国立遺伝学研究所・特任教授)		

(評価結果)

Aー (研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた)

(評価結果の所見)

本研究領域は、国際的に日本が強い分野である分子人類学、ゲノム進化学を主軸にし、日本列島及びその周辺地域の人類集団の成立の過程を、生物学的側面と文化的側面から解明することを目的としたプロジェクトである。この目的に向かい、現生人類、古人骨及び動植物のゲノム解析の研究が、考古学の年代分析と協働して進められ、一定の成果をあげている。弥生時代初期の人口の急増と急速な拡散、日本列島の集団と周辺領域及び東アジア大陸部の集団との近縁関係に関する新たな知見、現生ハツカネズミのゲノム解析による日本列島への導入の推定は注目に値する研究成果である。

中間評価結果の所見における、「文理融合型の研究に関して、研究項目間の有機的な連携を期待したい」という指摘については、古代人ゲノム研究（研究項目 A02・公募研究）と考古学研究（研究項目 B01）、現代人ゲノム研究（研究項目 A01）と言語学研究（研究項目 B01・公募研究）の共同研究により対応されている。

一方で、その他の研究項目間の連携は必ずしも十分ではなかった。本研究領域の推進には文理協働が不可欠であるため、本研究領域終了後も、この研究で構築したネットワークを継続的に活かした協働的取組に期待したい。また、進行形の状況で論文として出版されていない研究成果も少なくないことから、今後、成果のより一層の公刊が期待される。